

みんなが地域社会の構成員 多文化共生社会を目指して



多文化共生とは、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら、地域社会の構成員として生きていくことです。

今回は、本市の多文化共生社会の実現に向けた取り組みなどを紹介します。

◎問い合わせ コミュニティ文化課国際化推進室 ☎23-2295

「やさしい日本語で」 「コミュニケーション」

普通の日本語よりも簡単で、外国人にも分かりやすくした「やさしい日本語」。1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに、外国人などが災害時に適切な行動をとれるよう促す手段として考案されました。

近年では、災害時だけでなく平時における情報提供手段としても活用されていて、行政情報や生活情報、ニュース発信など、さまざまな分野で利用されています。



実践！ やさしい日本語

普段何気なく使う言葉を、やさしい日本語に変換してみよう。

① お飲み物は何を召し上がりますか。

何を飲みたいですか。

※敬語を使わなくても、態度で敬意は伝わりやすくなります。

② 通れないことはない

通ることができない

※二重否定表現は回りくどいので、はっきりと伝えましょう

③ 今度の日曜日の食事は、11時に
〇〇レストランに5人で集合です。

インタビュー



通訳者
高尾 百合子さん
(中国出身)

日本語が分からない状態で外国から転入してきた児童のサポートをするため、市内の小学校で通訳者をしています。学校では、教員や友人との通訳をはじめ、あいさつや礼儀など日本の文化・習慣を教えるなど、支援内容は多岐にわたります。私自身が来日時に言葉で苦労した経験があるからこそ、相手の気持ちに寄り添った対応を心掛けています。

今後も、子どもたちが国籍に関係なく仲良く学校生活を送り、笑顔で過ごせるよう手助けをしていきたいです。

インタビュー



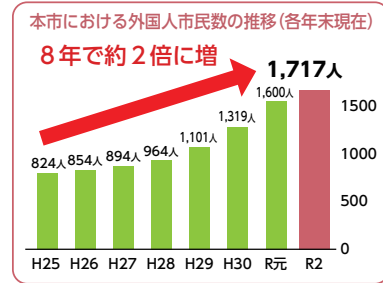
ブイ・ヴァン・ファンさん家族
(本人左・ベトナム出身)

都城に移り住んで7年目になりました。元々ベトナムで看護師をしていた経験を生かし、市内の福祉施設で介護福祉士として働いています。都城はベトナムと気候が似て暮らしやすく、何より皆さんがとても親切。困った事があるとすぐに相談に乗ってくれ、本当に助けられています。

これからも介護の仕事を頑張りながら、妻と1歳の息子とともに都城で楽しく暮らしていきたいです。

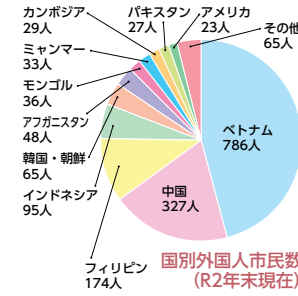
身近に暮らす外国人市民

本市の外国人市民数は、平成25年末の824人から、令和2年末には1717人と約2倍に増加。また、その国籍も多様化しています。



本市で暮らす外国人

市には、約33カ国の外国人が居住。ベトナムや中国、フィリピンの上位3カ国の人が約75%を占めています。また、在留資格別では、「技能実習」が約55%を占める一方で、「家族の仕事の都合などで一緒に来日している「家族滞在」の割合も増えている。家族全員が外国人という世帯も珍しくありません。



外国人市民を受け入れるために

多文化共生社会の実現のためには、日本人の気配りに加え、外国人市民の日本の慣習やルールへの理解も必要です。

市では、日本語講座や国際理解講座、日本の交通ルールなどを学ぶ生活安全交流会などを開催。国籍に関係なく、安心・安全に都城で生活するための取り組みを行っています。

注目 topic

「生活安全交流会」外国人住民とともに知ろう」を開催！

今度の日曜日に食事がありません。行く人は5人です。場所は〇〇レストランです。午前11時に来てください。

相手に分かりやすく伝える

単純でやさしい言葉や表現を使い、話す速さは「ゆっくり」を意識してください。書くときは、小学校低学年で習う程度のやさしい漢字を使い、振り仮名を付けます。

このように、日本語が母語ではない人とコミュニケーションをとる際には、「これは相手にとって分かりやすい言い方だろうか」と気配りを持つことが大切です。

交通ルールやごみの分別方法などをやさしい日本語を使って楽しく学びます。知り合いの外国人にぜひ、知らせてください。

●日時 3月13日(日) 10時~12時

●場所 沖水地区公民館

※申し込み方法など詳しくは、市ホームページで確認するか、コミュニティ文化課国際化推進室まで問い合わせください

